

平成19年度県予算案発表 2.4%減6年連続の減少

教育予算 20億円2.1%減額

県は、平成一九年度当初予算案を二月六日に発表した。予算規模は、前年度比二・四％減で、総額五一〇七億三〇〇万円。六年連続の縮小となった。また、平成一九年度の収支不足は、一三六億円程度となる見通しで、この不足する財政については、減債基金の取崩しによる対応をし、今後の予算執行については、経費節減を徹底的に行うこととした。

教育費についても、約二〇億円の減額である。現在実施している、「特別な支援のための非常勤講師配置事業（にこにこサポート事業）」や「中学校クラスサポート事業」、「小学校低学年多人数学級支援事業（クラスサポート事業・三〇人学級編制事業）」については、予算措置され事業継続する予定である。新規事業は次のとおりである。

▼「特別支援学校通学用スクールバスの運行事業」

特別支援学校への通学に関し、保護者の負担減額と生徒の自立促進を図る目的で実施。

▼「放課後子どもプラン事業」

子供たちが、地域社会の中で、心豊かに健やかに育むために、各地域が実態に応じ実施。

また、緊急課題対応枠に「学力向上対策事業」が盛り込まれた。内容は、以下のとおりである。

▽学力調査：小学校三年生・中学校三年生まで実施

▽学習ナビシステム：生徒の学習習慣定着と教員の事務負担の軽減を目的に学習プリント配信システムの導入

▽指導力向上：リーダーセミナー、授業向上セミナー、スーパーティーチャー養成事業等

島教協としては、予算案縮小であるが、教育は未来への先行投資と考え、今後も「子供のためになる施策」を提言・要望していく考えである。また、給与カットが一年間延長する予定である現在、教職員の勤務条件等の改善も引き続き訴えいく考えである。

情報報

No.564

島根県教職員協議会

〒693-0011

出雲市大津町2214

Tel 0853(22)7762

Fax0853(22)7762

代表者 安達利幸

編集人 奥井克己

E-mail

office@kyougikai.org

http://

www.kyougikai.org

全日教連

第56回評議員会開催



二月四日（日）、東京都千代田区のホテルにて、第五六回全日教連評議員会が開催された。三好委員長は、「予算縮小・人的削減等の中、現場の教職員は、頑張っている。安部内閣のもの、教育に関する施策が検討される中、国民も教育が大切である」という認識がある。今後も全日教連の理念に自信を持ち、教育界をリードしていくことが大切である。」と挨拶があった。島教協からは、安達利幸会長が出席し、今年度の活動経過報告や来年度運動方針等が協議された。また、来年度の行事計画で主なものは、定期大会は、六月一〇日（日）、大阪市で、教育研究全国大会は、八月四日（土）・五日（日）に岐阜県において開催されることが決定した。「詳細は、同封の全日教連新聞をご覧ください」

二月四日（日）、東京都千代田区のホテルにて、第五六回全日教連評議員会が開催された。三好委員長は、「予算縮小・人的削減等の中、現場の教職員は、頑張っている。安部内閣のもの、教育に関する施策が検討される中、国民も教育が大切である」という認識がある。今後も全日教連の理念に自信を持ち、教育界をリードしていくことが大切である。」と挨拶があった。島教協からは、安達利幸会長が出席し、今年度の活動経過報告や来年度運動方針等が協議された。また、来年度の行事計画で主なものは、定期大会は、六月一〇日（日）、大阪市で、教育研究全国大会は、八月四日（土）・五日（日）に岐阜県において開催されることが決定した。「詳細は、同封の全日教連新聞をご覧ください」

全日教連

中国・四国ブロック会議参加報告

一月二〇日（土）・二二（日）、徳島県徳島市のホテルにて、全日教連中国・四国ブロック会議が開催された。「組織の連携・教育改革を有効なものにするために」をテーマに、講演会や分科会が開かれ、島教協からは、安達利幸会長（城北小）・飯塚守副会長（平田小）・角森純子養護部長（浜山中）・奥井事務局長の四名が参加した。

一日目には、元プロ野球選手の石毛宏典氏（現四国アイランドリーグコミッショナー）が、「野球にかける思い・人を育て、人を生かす」をテーマに講演を行った。石毛氏は、「大人は、教師である。教師は、エネルギー、熱い思い大切」、「未熟者は、それを認め素直になれ」など、自分の経験をもとに、人を育てる難しさや大変さ、そして大切なことを熱く語った。

二日目には、七分科会に分かれ、各分野ごとの情報、意見交換が行われた。養護部会に参加した、角森部長からは、事前に島教協養護部会よりアンケートを実施した内容をもとに、島根県の状況や課題等を話した。他県からも養護教諭の職務内容の重要性を理解してもらおう努力が今後も大切であるなどの意見が交わされた。



左より角森部長・安達会長・飯塚副会長